

2017年2月24日 金曜日

協賛企業プレゼン



シスコシステムズ、JIPDEC、株式会社シマンテック、日本シノプシス合同会社、パロアルトネットワークス株式会社、富士通株式会社、株式会社富士通ラーニングメディア、MCセキュリティ、Intel Security（マカフィー株式会社）、ライムライト・ネットワークス・ジャパン株式会社、デジタルアーツ株式会社、トレンドマイクロ株式会社、株式会社ワイ・イー・シー（YEC）、NTTコミュニケーションズ株式会社、以上14社の方から事業内容や製品のプレゼンが行われた。

ナイトセッション総括



森井先生をコーディネーターとして、ナイトセッションを総括するパネルディスカッションが開催され、各テーマの総括が行われた。

【テーマ1 総括】

セキュリティ対策製品を購入しても、新たに出現し続けるセキュリティ上の脅威に対応できそうにない。セキュリティ対策をサービスとして、クラウド側で対応してもいいと考えている。またセキュリティは技術偏重になり、マネジメントがおろそかになりがちではないか。ちゃんとした目的意識を持ち、対策を考えていくことが重要である。ベストプラクティスよりもセオリーを。

【テーマ2 総括】

前半はユーザー企業内の人材不足について議論した。ナイトセッションでは、そもそも IT 人材不足、スキルを身につけるコストの問題、ベンダーに騙されないスキルが必要、そもそもユーザー企業に詳しい人はいない、そもそも教える人がいない、専門家と一般の人の間の乖離が大きい、などの意見があった。後半は技術者の人材不足について議論した。人材不足の一因として、工学系離れによる絶対数不足、教育のミスマッチがあげられる。ロールモデルの不在、家庭の中での憧れ、世代による興味の変化、セキュリティ担当は怒られてばかりほめられることはない、などの課題があげられた。

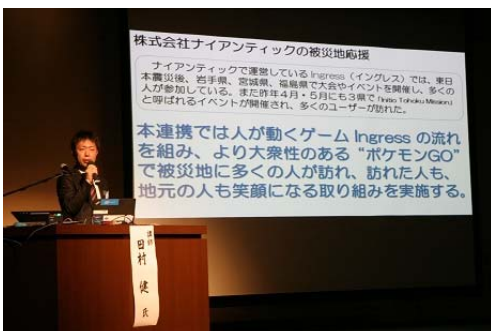
【テーマ 3 総括】

車のセキュリティを普及させるにはどうするか。保険料を安くする、補助金を出す、人命にかかわることなので対応しなければならないことであると考え、などの意見があった。また車のセキュリティを調査・研究するために車は高価なので PC のように簡単にはいかない。そのための環境の整備も重要である。

【テーマ 4 総括】

CSIRT の業務内容は会社によって異なり、何が目的かを考えることにより内容が決まる。CSIRT の人材としては単なるセキュリティ技術者ではなく業務を理解して自分で考えられる人が適している。脅威が自分のものとして考えられるように変わっていくと、未来はインシデント対応が日常リスク業務になる日が来る。そのとき CSIRT は・・・

講演 5



「ポケモン GO による地方創生の取り組みと展望」という題目で宮城県経済商工観光部田村健氏に講演を頂いた。

震災があって6年になる。震災後に観光客数が落ち込んだ。現在は観光客も戻ってきたが地域格差がある。また記憶の風化もしつつある。その中、熊本地震が発生した。被災地に来て

見て知ってほしいという思いで、ポケモン GO の特性を生かすことを考えた。被災した4県（岩手、宮城、福島、熊本）と Niantic 社が連携して観光復興に取り組んでいくことを8月10日に発

表した。

1. ポケストップ、ジムの追加
2. ポケストップを利用した周遊策
3. ゲームと被災沿岸部地域を結ぶイベント開催

これらを核にしたイベントを開催している。具体的な策としては、

- ・ポケストップと呼ばれるゲーム内アイテムをもらえる施設を被災地に増やす
- ・この施設を探すためのバスツアーや散策マップの作成
- ・捕まえたポケモンの大きさを競い、優勝者には県産品をプレゼントする

など様々な企画を用意した。当初は集客見込みを2千人程度としており本当に地域創生につながるのか疑問であったが、Niantic社独自による企画もあり、実際には1万人もの人が来場しかなり賑わったイベントとなった。賑わう一方で歩きスマホや車の渋滞などといった問題も発生してしまった。ポケモンGOによる地域創生は大いに効果があることがわかったがマナー違反も増えてしまうという課題を今後解決する必要がある。

パネルディスカッション



株式会社ラック西本逸郎氏をコーディネーターとして「ポケモンGOに見るCPS/IoT時代の胎動」という題目でパネルディスカッションが開催された。パネリストは、株式会社まちづくり松山 加戸慎太郎氏、四国霊場86番札所志度寺 十河陽之助氏、福岡アジア都市研究所 中島賢一氏の3名の方で、独自の取組を紹介頂いた。

西本氏は、前置きとして、ポケモンGOを自身のプレイを振り返りながら紹介し、ポケモンGOについて日付・位置情報や偽情報など様々な確認事項があることを話した。

加戸氏は、街づくりは思い出づくりという思いで活動しており、ポケモン GO もその目的のために活用している。松山の中央商店街でポケモンを捕まえやすくすることで、それが話題になり、親子連れも増え、活性化を図ることができたという事例を紹介した。

十河氏は、四国八十八箇所に住職の立場で、ポケモンに乗っかるのではなく自分たちの方法でお寺に人を呼び込む方法を考える必要があると述べ、自身が作っているアプリを紹介した。アプリを自ら作ることで独自の設定も可能になりなる。また地域間連携も必要だが、地域間競争も必要であると述べられた。

中島氏はポケモン GO により福岡で起こった事例を紹介した。レアポケモンの発生で短期間のみ人の増加が見られたことを述べ、ポケモン GO は一時的な行動を促す強制力が強い行動変容を含んでいることを示し、それを踏まえてポケモン GO の活用方法を考えなければならないことを提案した。

ディスカッションでは、長期的に人を呼び込む場合にはレアなポケモンを増やすといった局所的なイベントではなくもっと息の長いイベントを考える必要があることや、普段しない人にとってはこのようなイベントは奇妙なものに見えてしまうので、そういう人たちや地域の人たちとコミュニケーションを取ることで連携していく必要があるという意見があった。

まとめとして、今後、ポケモン GO のような新しいイベントが開催され、賑わっていくことが予想される。新しいものを認める考えが必要で、若い人が活躍できる場所を作っていくといけなると述べられた。

【サブプログラム会場】 中小企業向けセミナー第 1 部



富士通株式会社 佳山こうせつ氏を講師として「ゼロから始めるサイバーセキュリティ体験セミナー」という題目でセミナーが開催された。

セキュリティ改善は必要だと認識しているもののやるべき対策が山積みと感じないか？といった問題提起が初めに行われた。これに対し、脅威を正しく認知する事が出来れば、適切な対策を考えられるという

事を主題とし、「全体設計の最適化」をキーワードに話が展開された。

攻撃者目線でサイバー攻撃の脅威を認知する機会として、ウイルス感染のデモンストレーションが行われた。これを基に攻撃回避に重きを置いた全体設計が大切である事が示され、実際のシステムを用いた最適化の説明が行われた。また情報漏洩だけでなく、攻撃によりイノベーションが潰される事も脅威の1つであり、セキュリティ対策とはリコールを起こさせない土台の構築でもあるといった観点も重要となる事が示された。

【サブプログラム会場】 中小企業向けセミナー第2部



愛媛県警察本部サイバー犯罪対策室から「県内のサイバー犯罪の現状と対策」と題してセミナーが開催された。

サイバー犯罪の被害は知っていれば防げるものが多いので、より多くの人に攻撃の手口を知って貰うことを目的として実際の被害事例の説明が行われた。

県内で多く相談される事例としては、大手通販会社を騙った偽ウェブサイトでの詐欺、ストーカーによる不正アクセスが挙げられた。LINE のなりすましによる詐欺も急激に増えている事も示された。その他、WordPress を用いた Web ページの改ざんのデモンストレーション、iPhone のアプリにおけるセックストーション（性的脅迫）の概要説明も行われ、いずれにおいても新たな被害者を出さない為の注意喚起とシステム対策が大切である。

最優秀学生研究賞表彰式



丸山 誠太 氏による「Trojan of Things:モノに埋め込まれた悪性 NFC タグがもたらす脅威の評価」が最優秀学生研究賞、四国総合通信局長賞として表彰された。

Sec 道後プレイベント報告



SecDogo Digest 第1号にも報告を掲載しているが、愛媛大学で2月19日（日）に開催されたセキュリティハンズオンセミナーの報告が富士通 佳山氏、愛媛県警 杉野氏により行われた。

地域密着の場、基礎を学ぶ場、フレンドリーな場を Sec 道後と作り上げることを目的として実施した。予想を上回る人数が参加し10代の参加が最も多かった。参加者に対するアンケートでは、セキュリティについて何もしらなかったが実際に触れることで理解したという声が紹介された。

閉会あいさつ



大会顧問の田崎先生から閉会の挨拶を頂いた。過去の5回と比較して今回は新しい試みを実施され充実した内容であった。学生表彰という取組やナイトセッションも4つになった。愛媛でこのようなイベントを行っていることを多くの人に知ってもらえればと思う。メイン、サブイベント会場共に

満席でぜひ来年も続けていただきたい。テーマは、人材育成、車の問題、など真剣に取り組む重要な課題が取り上げられた。今後シンポジウムの大きなテーマになると思う。来年もまたシンポジウムで会えることを楽しみにしていますと締めくくられた。

今年の SecDogo 担当

愛媛大学工学部情報工学科4年 井上太、稲葉史弥、上野ひかり、武智聡平

愛媛大学大学院理工学研究科情報工学専攻1年 三島悠

愛媛大学 甲斐博

鳴門教育大学 曾根直人

以上の7名で担当しました。有難うございました。